

●北海道鹿追町立鹿追中学校

# ユニークな連携型小中高一貫教育で、2色プリントを授業の振り返りに活用。

北海道鹿追町立鹿追中学校は、町を挙げて進める連携型小中高一貫教育校で、文部科学省の指定研究開発学校でもあります。

ここでは主に授業の振り返り（学び直し）に2色プリントを活用していますが、小中高に相互乗り入れする先生方の指導力向上にも効果を上げています。



堀 光生校長

## 一貫教育の内容を2色で強調

昭和22年開校の北海道鹿追町立鹿追中学校（堀光生校長）は生徒数131名、教職員19名。現在、町を挙げて進めている連携型小中高一貫教育において文部科学省指定研究開発学校であり、今年度は連続3期目1年次（7年目）を迎えています。2色デジタル印刷機を導入したのは、平成20年7月。さつそく、堀校長を中心に2色プリントの活用を協議。

まず11月に控えていた鹿追町小中高一貫教育研究大会の「学習指導案」で、特設公開研究教科である英語と数学で青と黒の2色を活用することが決まりました。「鹿追町がカナダ・ストニーブレイン町と姉妹町であるため、当校では英語をカナダ学として、実践的に英語のコミュニケーション能力を向上させることを目指しています。また、数学もBS（ベーシック・スキル）数学と呼び、実社会とのつながりを

重視した授業を展開しています」（堀校長）

こうした当校の特色や指導方針を強調するため、英語の「学習指導案」では指導目標や学習活動、指導展開のポイントを青色でプリント、内容が一目で分かるように配慮しました。数学でも、数学的な見方や考え方について青色でプリントし、強調しました。

「研究授業の内容を明確に伝えることができ、分科会でも充実した話し合いができました。北海道内外から参加いただいた皆様に、鹿追町の新しい教育の姿を、広く発信することができたと思います」（堀校長）

## 指導力の向上にも効果が

各教科でも2色プリントを活用して教育効果を上げています。

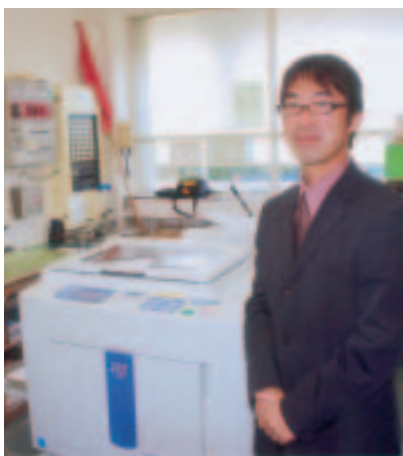
毎日の授業ではワークシートに、板書できない細かな解説を赤色で印刷しています。写真サンプルは数学のワー

クシートですが、担当の佐々木敦史先生は、

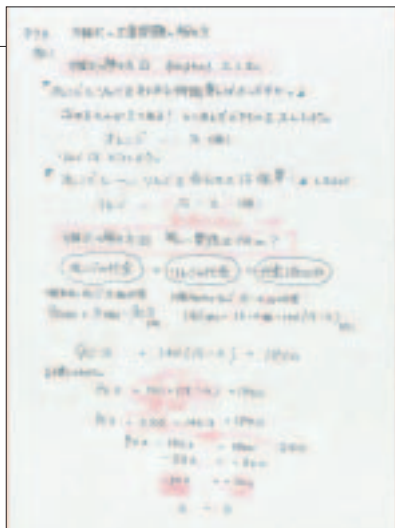
「説明がしっかりと書かれているこのワークシートを、生徒はファイリングします。後で授業内容を振り返り、学び直しができるようになっているのですが、その際に2色の効果を実感しているようです」と語ります。

国語や社会、理科などの他教科でも、同様の活用をしています。当校は小中高の一貫教育で、先生が相互に乗り入れて指導する授業が多いのですが、2色プリントにすることの効果は、先生方にも及んでいると堀校長は語ります。

「たとえば中学3年の数学では



2色デジタル印刷機の前の中井慎二先生



数学のワークシート



一貫教育研究大会の資料 (学習指導案)



学級通信「CHALLENGE」

学級通信にも2色を積極的に採り入れています。1年生の学級通信を制作する駒井慎二郎先生は、2色活用のポイントを次のように語ります。

「たとえば青と黒の2色でプリントする場合、私は生徒や保護者に伝えたいメッセージやキーワードを、①文字そのものを青色にする、②背景を青色にして際立たせる、の二通りを適宜使い分けています。2色プリントの学級通信は、より効果的に学

中学の先生が2名、高校から1名が入り、中学3年と高校1年の授業を進めていきます。何をどう教えるかについては、指導陣の共通項目にならなくてはなりません。

その点、赤色にする説明項目の選択や表現などで、以前よりも生徒に教える内容を厳密に考え、協議することが多くなり、教員の指導力が向上していると思います」

**有効な視覚的情報伝達手段**



鹿追町立鹿追中学校

級づくりの過程や担任の思いを伝える、きわめて有効な視覚的情報伝達手段だと考えています」

保護者の方からは、「多感な中学生だからこそ、視覚的な情報を受け止めながら成長していく。学級の様子と先生の気持ち、分かりやすい言葉と2色プリントで、心と頭に飛び込んでいきます」との反響が学級懇談会で出されているとのこと。

また、生徒会新聞「飛翔」でも、青色、あるいは赤色を採り入れた「修学旅行特集」「冬のイベント特集」を企画するなど、意欲的に2色の活用に取り組んでいます。